

牧師室から (2021.2.21)

美味しそうにもぐもぐ食べる彼女を見ると、こっちも元気になりそうである。あれも美味しい、これも美味しい、と出されたものをたっぷり食べるのを見ながら、私も引きずられてついつい食べてしまう。二人は満腹して笑いだしながら話が弾む。開拓伝道で疲れを覚えたりしていた私には、たまにはあるが彼女との食事の時間は楽しいひと時であった。30歳過ぎてからの大学での留学生活は楽ではないようだが、それに毎日夜遅くまでアルバイトをしていた彼女は、いつも寝不足を訴えながらも明るく笑っていた。

受難節のある日に彼女は私に言った。「先生、私、チョコレートが大好きですよ、しかし、受難節には一切食べないようにしている。イエス様の苦難を憶えるために」。私はつい笑ってしまったが、疲れる時にチョコレートを口に入れて元気を出していた彼女にとって大きな決断であるのは分かっている。彼女のイエス様への愛の告白であるのだ。

受難節に入っている今、彼女のことを思い出しながら、私なりの、主の苦難を憶えるための行いは何かを思い巡らしている。

「彼が刺し貫かれたのは、わたしたちの背きのためであり、彼が打ち砕かれたのは、わたしたちの咎のためであった。彼の受けた懲らしめによって、わたしたちに平和が与えられ、彼の受けた傷によって、わたしたちはいやされた。(イザヤ 53:5)」

(鈴木善姫牧師)